

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20590506

研究課題名（和文） フィリピン人看護師の国際移動に関する医療社会学的研究

研究課題名（英文） Study on Philippine Nurse Migration from a Perspective of Medical Sociology

研究代表者

朝倉 隆司 (ASAKURA TAKASHI)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：00183731

研究成果の概要（和文）：

フィリピン人看護師の国際移動に関する心理社会的要因、フィリピンの経済状況、海外労働政策、医療事情を検討するために、第一に、フィリピン国マニラ首都圏で看護師の海外への送り出しや受け入れに関わる関係者（ステイクホルダー）に聞き取り調査を行った。その結果、フィリピン人看護師を送り出す社会状況、政府の方針、頭脳流出の状況などを具体的に明らかにした。第二に、フィリピンのマニラ首都圏にある9つの大学の看護大学生を対象に、海外就労への意向の要因を明らかにするため、集合調査による質問紙調査(英語)を行った。海外就労意向を「すぐにでも渡航したい」「しばらく働いて渡航したい」「海外で働くつもりはない」の3群に分けて、基本属性、看護大学を選んだ動機、看護師として海外就労する時の期待、フィリピン社会・海外就労の価値・フィリピン人看護師に対する意識、フィリピン人としての規範意識との関連性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

We examined which psychosocial factors can discriminate between three groups using multinomial regression analysis; nursing students who intend to go to abroad to work immediately after graduation, those who intend to go to abroad to work after getting some experiences, and those who intend not to go to work abroad.

We selected nine universities out of excellent universities located in Manila and Quezon City, which passing rates of the latest National Licensure Examination for Registered Nurses (NLE-RN) performed in June, 2009 were higher than 87%, except one university (63%). We visited one to three classes in each university with permission of authorities concerned and asked senior nursing students attended there to answer our self-administered questionnaire.

The survey was conducted between November 2009 and January 2010.

Controlling for background data, by multinomial regression analysis we find factors related to increase a probability to choose “intention to work abroad immediately” over “intention to work abroad after some experiences (reference category).” Multinomial regression analyses also revealed relative risks that nursing students choose “intention not to go abroad to work” over the reference category.

The results was shown that some demographics, ‘expectations when you work abroad as a nurse’, ‘perception on Philippine society, value of working abroad, and Philippine nurse’, ‘sense of purpose of becoming a nurse’, ‘sense of the norms as a Filipino’ discriminated nursing students who intend to go to abroad to work immediately after graduation from those who intend to go to abroad to work after getting some experiences (the reference), and those who intend not to go to work abroad from the reference.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：医療社会学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：フィリピン 看護大学生 国際労働移動 頭脳流出 質問紙調査 多項ロジスティック回帰分析

1. 研究開始当初の背景

先進国における看護師不足と、その雇用を目的とした経済発展途上国の看護師流出は、早急に解決すべき 21 世紀の重大な国際的問題へと進展している (“Working Together” ch. 5, The World Report 2006)。WHO や ILO、国際看護協会 (ICN) は、繰り返しこの問題に警鐘をならしてきたが、看護師の国際移動のトレンドはとどまる気配がない。

国外の研究動向では、1970 年代半ばには米国の看護師不足によるフィリピン人看護師の大量流出が問題となっていた (Choy: 2003)。しかし、国際的に保健医療政策の課題として研究が増え始めたのは 2000 年前後である。フィリピン人看護師の国際移動に関する先行研究は、受け入れ国がオーストラリア (Omeri, 2002 など)、カナダ (Kline, 2003)、アイルランド (Aiken, 2007)、イギリス (Kline, 2003)、アメリカ (Spangler, 1992) 等がある。最近でも、Health Service Research. 42(3), 2007 で特集が組まれるなど、保健医療における社会科学や健康政策の研究者にとりホットな研究関心であるが、情報が不十分なため、多くの課題が未解明のままであると指摘されている。

他方、日本国内における外国人労働者の研

究は、社会学者を中心に、イランなど中近東、バングラディッシュやフィリピン、中国などのアジア諸国、ブラジルなど南米からの労働者に関する研究が行われてきたが、主に単純労働者や性・風俗産業に関する問題であった。日本及びアジアにおけるフィリピン人の国際移動の問題は、広くケア提供者（介護労働者及び家事労働者）という観点から、近年ようやく研究が始まったばかりである (伊藤、2003; 伊藤ら、2005)。日本でのフィリピン人看護師の受け入れを視野に入れた研究は乏しい (朝倉ら, 2007、勅使河原, 2007)。とりわけ医療社会学、看護学という医療と社会科学の両方の観点を持った実証研究はみられない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、医療・ケア労働のグローバル化の中核である看護師の国際移動 (international migration) を対象に、「送り出し国と受け入れ国の利益を増大させ、不利益を減少させるには、この課題にどのように取り組めばよいのか」という視点から研究課題を設定し、現地調査に基づき解明することである。

そのための研究課題は、健康政策、ヘルスケア・システムのマネジメントというマクロ

な次元と看護師個人の特性というミクロな次元をカバーし、以下の5点に集約される。

①看護師の国際移動に関わる要因（プッシュ要因とプル要因など）や社会経済的背景、並びに海外で働こうと意図する看護師（看護大学生を含む）の専門職上の特徴を明らかにする。

②送り出し国の看護師の国際移動とそのヘルスケア・システムへの影響に関わる医療政策、看護政策、ステークホルダーの対応や考えの実態を明らかにする。

③看護師の帰国を促進し再統合するための政策や取り組み、その効果と問題点を明らかにする。

④受け入れ国側では、フィリピン人看護師の医療職場での処遇や統合を、職業保健（労働条件や差別等の健康影響）とマルチエスニックな医療システムのマネジメントという観点から検討する。また、専門職としての成長などポジティブな効果も視野におく。

⑤受け入れ国が、送り出し国のヘルスケアに質的な低下を生じさせないために期待される支援や取り組み、外国人看護師の雇用やリクルートの倫理的枠組みを明らかにする。

なお、本研究期間において、5つの課題の全てについて、必ずしも十分に明らかにできたわけではない。

### 3. 研究の方法

本研究は、3つの調査を行った。まず、フィリピン国マニラ首都圏で看護師の海外への送り出しや受け入れに関わる関係者（ステイクホルダー）に聞き取り調査である。次に、看護学生を対象にしたフォーカスグループインタビューである。3つ目は、フィリピンのマニラ首都圏にある9つの大学の看護大学生を対象西他、アンケート調査である。

### 4. 研究成果

上記の2つの調査に関しては、朝倉ら（2010）に概要をまとめたので、ここでは3番目の調査の概要を述べる。

看護大学生を対象とした質問紙調査のデータを分析して、海外で働こうと意図するフィリピン人看護大学生の特徴を明らかにした。対象者は、マニラ首都圏にある看護師国家試験の合格率が上位である大学（1校を除き87%以上）を規模別に分け、9校を選定し709名から回答を得た。海外就労意向を「すぐにでも渡航したい」「しばらく働いて渡航したい」「海外で働くつもりはない」の3群に分けて、基本属性、看護大学を選んだ動機、看護師として海外就労する時の期待、フィリピン社会・海外就労の価値・フィリピン人看護師に対する意識、フィリピン人としての規範意識との関連性を多項ロジスティックモデルで分析した。基準カテゴリーは「しばらく働いて渡航したい」である。

男は女に比べ、中国系の学生は他の学生と比べ「すぐにでも渡航したい」意図が強い。また経済的困窮度が低いと「すぐにでも渡航したい」と「海外で働くつもりはない」に2極分化する傾向にあった。海外旅行経験がある学生は、「すぐにでも渡航したい」と「海外で働くつもりはない」に2極分化する。看護コースを選んだ動機が、「海外就労で良い収入を得る」が強いと基準カテゴリーと比べ「すぐにでも渡航したい」を選択する傾向が高まり、「海外で働くつもりはない」を選択する傾向は弱まる。

「社会や個人の発展のため」が強いほど、基準カテゴリーと比べ「すぐにでも渡航したい」を選択する傾向は弱まる。看護師として海外就労する際の期待は、キャリア発達への期待が強いと基準カテゴリーと比べ「海外で働くつもりはない」は選択されなくなる。「夢

の実現」への期待が強いと、「すぐにでも渡航したい」を選択する可能性が高く、「海外で働くつもりはない」は選択されなくなる。「留まって国のために働く」規範が強いと、「すぐにでも渡航したい」を選択する可能性は低く、「海外で働くつもりはない」を選択する傾向にあることが明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 朝倉 京子、朝倉 隆司、平野 裕子、兵藤 智佳 (2010)、日比 EPA 締結後のフィリピンにおける看護の情勢・政策の現状—フィリピン人看護師の国際移動を支える社会システムの現状と日本進出の可能性 (第 2 報)、看護管理、20(6)、516-519
- ② Yuko Ohara-HIRANO, Reiko OGAWA, Shun OHNO (2010), How Do Japan's Hospitals Evaluate the Economic Partnership Agreement Scheme?: A Comparative Survey between Hospitals Accepting the First Batch of Foreign Nurses and Those Accepting the Second Batch, Bulletin of Kyushu University Asia Center Vol.5, 127-139
- ③ 田中マキ子、朝倉 隆司 (2010) シンポジウム 外国人労働者の参入をめぐる介護・看護マンパワーの不足と偏在—インドネシア看護師らの現状と抱える問題、日本保健医療社会学論集 第 21 卷(特別号)、31

[学会発表] (計 3 件)

- ① 朝倉 隆司(コーディネーター) (2010)

シンポジウム 外国人労働者の参入をめぐる介護・看護マンパワーの不足と偏在—インドネシア看護師らの現状と抱える問題、第 36 回日本保健医療社会学学会大会

- ② 朝倉 京子、朝倉 隆司、平野 (小原) 裕子、兵藤 智佳 (2009) 日比 EPA によるフィリピン人看護師受け入れに関わる課題；フィリピン国内における関係者への聴き取り調査から、第 35 回日本保健医療社会学学会大会
- ③ 朝倉 隆司、朝倉 京子、平野 (小原) 裕子 (2009) ラウンドテーブルディスカッション：看護師の国際移動と保健医療社会学の課題、第 35 回日本保健医療社会学学会大会

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

朝倉 隆司 (ASAKURA TAKASHI)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号：00183731

##### (2) 研究分担者

朝倉 京子 (ASAKURA KYOKO)  
東北大学大学院・医学系研究科・教授  
研究者番号：00360016

平野 (小原) 裕子 (HIRANO-OHARA-YUKO)  
長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授  
研究者番号：50294989